

特集・市民と生涯学習②

# 市民と学習、活動

## ① 地域の子供達と共に すくすくクラブの活動

すくすくクラブ

一 はじめに

地域のお母さん達と始めたすくすくクラブも今年で四年目に入ります。子供達、青年達、お母さん達で、共に泣いたり、笑ったりですが、これからも子供達の心をしっかりとらえ頑張つて行きたいと思つてます。

では、子供による子供のためのすくすくクラブについて、これからお話ししたいと思います。

二 すくすくクラブの誕生

昔は、親が何もしなくとも、子供達には、遊び場、仲間、時間、自然環境が豊富にありました。でも今は、社会の変化に伴って、これらの事が失われつつあります。そういう中で、「地域に子供達が遊べる所を」「異年齢集団の中で我が子を遊ばせたい」「たくさんの仲間の中で子育てをしたい」という近所のお母さん達が集まり、子供達と共に会の名前を考え、一九八六

- ① 地域の子供達と共に
- ② 「女の考えるまちづくり」をビデオで表現
- ③ 洋光台男声合唱団
- ④ 通信制高校生と学習

- 一 はじめに
- 二 すくすくクラブの誕生
- 三 すくすくクラブの目的
- 四 すくすくクラブの活動内容
- 五 子供達の活動の様子
- 六 おわりに

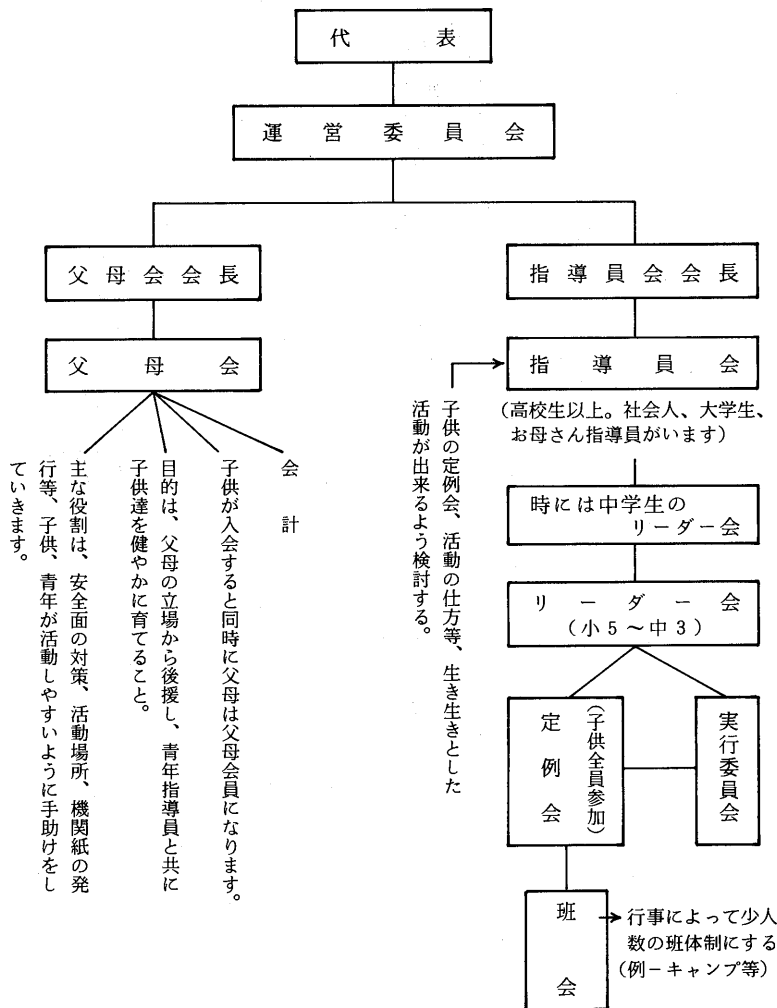
年四月、地域（上末吉、梶山、駒岡）にすくすくクラブは誕生しその活動をスタートしました。

### 三 すくすくクラブの目的

子供同士で企画をたて、運営するような集団づくりを進めており、その目的は次のようなものです。

- (1) 一人ひとりが考える場、活躍できる集団。

図-1 すくすくクラブ運営組織図



(2) 子供同士が力を合わせ、物を作り出す喜びや感動からお互いを認め合える心を育てる。すなわち、子供同士(対象、小学生・中学生)が、話し合って行事を計画、実行していく、その時、高校生、大学生、社会人のお兄さん、お姉さんが手助けしていくのです(すくすくクラブでは、こういったお兄さん、お姉さんのことを

を青年指導員と呼んでいます)。例えば、クリスマス会の行事を実施する時、どんな内容にしようか? ゲームは? 司会は? 役割分担は? と考えていく時、子供達の意見がぶつかり合ったり、ゆずったり。大きい子供やリーダー(すくすくクラブでは、小学校五年生から中学校三年生までの会員を全員こ

子供が入会すると同時に父母は父母会員になります。目的は、父母の立場から後援し、青年指導員と共に子供達を健やかに育てること。  
主な役割は、安全面の対策、活動場所、機関紙の発行等、子供、青年が活動しやすいように手助けをしていきます。

子供の定例会、活動の仕方等、生き生きとした活動が出来るよう検討する。

行事によって少人数の班体制にする(例-キャンプ等)

う呼んでいます)は、小さい子供に対してどのように接していくのか等々。子供が自分達でいろいろなことを考えていくのは大変でしょうけど、それを仲間達や青年指導員のお兄さん、お姉さんと一緒にやりとげた時の嬉しさ、喜びは、何ものにもかえがたい。その子供達の自信、生きる力につながっていくことと思います。思春期に自己表現のできる場があること。青年とのふれ合いの場があること。また、自分のことを認めてくれたり、励ましてくれる仲間がいることは、子供にとってかけがえのない財産になることと思います。

四——すくすくクラブの活動内容

- すくすくクラブの活動には、子供達のやりたなもの、青年指導員から出たもの、お母さん達から出たものがあります。主に、子供同士の話し合いから出たものを取り上げています。三年間の活動は、いろいろな分野にわたります。それらを分類すると次のようになります。
- (1) 室内遊び、ゲーム
    - らくがき大会、ミニ運動会、しんげんち、エスチャー等々。
  - (2) 外遊び
    - ドッチボール、キックベースボール、野球、

どろじゅん、アドベンチャーゲーム、Sケン等々。

(3) 工作

すくすくバッチ作り、折り染め、たこ作り、紙すも、わりばし鉄砲、すごろく、アートフラワー、マカロニ細工、洋服作り等々。

(4) 野外活動

キャンプ、デーキャンプ、オリエンテーリング、ウォークラリー、いも煮会、ミステリーハイク等々。

(5) 行事活動

新年会、卒業生を祝う会、歓迎会、クリスマス会等々。

(6) その他

プール遊び、三田祭見学、ユース祭り参加等々。

五——子供達の活動の様子

すくすくクラブの活動を続けていて、子供達の成長をみるのが一番嬉しいことです。すくすくクラブの活動日誌の中から子供達の活動の様子などを記載してみます。

①—すくすくバッチが出来るまで（一年目）

すくすくバッチ作りは、すくすくクラブが誕

生してまだ間もない頃の活動です。これから会をどのように運営していくのかと話し合い、その結果、頭の中で考えるのではなく、何か目に見えるものをみんなで作って、積み上げていこうということで、考えられた活動のひとつです。

まず、小学校四年生以上の子供達五人（全員）が集まって、どんな形にしようか？ どんなデザインにしようか？ どんな材料で作ろうか？等と話し合い、翌日材料を買い出しに行くことにしました。学校からの帰宅後、五人共集合場所に一目散に集まってきて、近くの手芸屋さんへ走って行きました。そこで、フェルトの色を決めるときの子供達の会話は、

「男の子、女の子、色は別にしようよ」

「男の子、女の子でもおかしくない色がいいよ」

「黄色はやだよ、きいろ虫がつくもの」

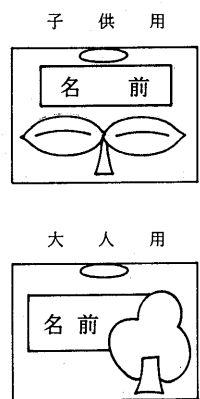
結局、「空色」に決まりました。この五人の

中には、違う学校の子、男の子、女の子、ちょっと障害を持った子が入っているのですが、子供達は違和感なく溶け合っていました。この様子を見て、大人が考える以上に子供の集団の力はすごいんだなと感心する一方、大人が介入できない子供同士のつながりを見ることが出来ました。

②—第二回夏のキャンプ（二年目）

野島青少年研修センターにおいて、八月に一日泊二日で二回目の夏のキャンプが行われました。

図-2 すくすくバッチ



今回のキャンプのねらいは、献立班、ナイト班、あそび班の三班に分かれて、子供達が自分の好きな班に入り、自分の思っていることを十分に表現出来るようにということでした。

例えば、食事作りの時は献立班（スパゲティナポリタン、ボンゴレを作りました）の子供達が主役になるように、キャンプの夜はナイト班（おぼけ大会）の子供達が主役になるように、遊びの時はあそび班（ダンボールで家造り、ウォークラリー等）の子供達が主役になるようにしました。キャンプに向けて、青年指導員を中心に、それぞれの班会を開き準備をしていきました。

ここでは、ナイト班による当日のおぼけ大会のひとつまをご紹介しましょう。

夕食後、一同部屋に集まると、子供達は部屋の電気を消してみたり、つけてみたり。暗い部屋の中では仲間や青年指導員のお兄さん、お姉

写真一 夏のキャンプで野外炊飯の準備をする子供達



最初はそれは大変な騒ぎでした。お母さん達は顔を見合わせ、「えっ、夜歩くなんて。小さい子供もいるし、危なくないかしら」と戸惑うばかりでした。しかし、それではまず下見に行ってから決めようということ、青年指導員、子供のリーダー、お母さん達で何回か現地を足運び、いろいろな角度からみんなが話

さんの腕にぶらさがったり、ふざけたりでキャンプの大騒ぎ。そのうち、「どうぞこちらへ」とナイト班によるおばけ大会の始まり……。髪の毛をたらしユカタを着たメーキャップした子供のおばけ、トイレットペーパーをまいたミイラの子供のおばけ、懐中電燈のひと玉、コンニャクをもった子供、振り向いて倒れるさまを見せるおばけの演出等々。

この日に向けて一生懸命考えたものが、ここに結集されていました。仲間がおばけになっていることを分かっているのに、こわがって泣き出す子供、はいずって逃げる子供、大笑いする子供、「やったぞ」とVサインを出すおばけ達、それはそれは大変な騒ぎでした。

私はおばけ大会の中に、子供達みんなの、子供らしさ、はじけるような楽しさで輝いている顔を見ることが出来ました。

### ③ 第三回夏のキャンプ（三年目）

観音崎青少年の村において、八月に一泊二日で三回目の夏のキャンプが行われました。

今年のプログラムは、野外炊飯と、ナイトウォークラリーに重点を置き、残りの時間は磯遊びや、フィールドアスレチックのどちらかを選び、自由遊びにしました。

ここではナイトウォークラリーについてお話しします。

写真二 楽しい夏のキャンプの食事風景



し合いを繰り返して、その結果、「ナイトウォークラリーをやるう！」と全員一致で決定しました。

当日は五、六人ずつの班に分かれ、青年指導員がその中に入り、トランシーバーを使つての安全確認。子供達は暗い夜道を友達同士腕を組んだり、青年指導員のお姉さんの手をしっかりと握る子供、星の話をする子供等。後ろの班の間達が見えないとこわくなって、「オーイ」とみんなが呼んだり、声がして安心したり。その

くせ、お互いに近づいてくると、男の子も女の子も強がりを書いて、笑う子供達で大騒ぎでした。

今までのキャンプは、現地の施設にいる指導員の力に頼ることが多かったのですが、三年目のキャンプはすすくクラブの青年指導員、リーダーの子供達、お母さん指導員や、父母会の力が一つに合わさって、初めて自分達の力だけで行う事が出来、大いに意義のあるキャンプとなりました。

④ すすくクラブのクリスマス会（三年目）  
⑦ 第三回クリスマス会に向けての子供の定例会（第一回）

(ア) クリスマス会の出し物について  
クリスマス会の出し物について、子供達から出た意見は、「キャンプで楽しかったからナイトウォークラリーをやりたい」「クリスマスにナイトウォークラリーなんて変だよ」「ゲームがいいよ、好きですか、嫌いですか？ やりたい」。その他、いすとりゲーム、かくれんぼ、マジック袋等々が出ましたが、出し物についての細かいことはリーダー会に任せて下さいとしました。

(イ) プレゼント交換について  
話し合いの結果、今年は手作りの物をプレゼント

ントすることが決まりました。手作り決まるまでのことを少し書きます。

青年指導員のお姉さんの司会で始まり、

女の子「プレゼントは、今年も三百円ぐらいの

ものを買ってくるのがいいよ」

男の子「手作りの物がいいよ」

女の子「手作りの物なんかろくなものないよ」

男の子「手作りの方が、心がこもっているよ」

と言って、両者ともゆずらず、「では、どのように決める？」

男の子「さんまのジャンケンしよう」

女の子「ヤダ、ジャンケンには負けるからイヤ、

くじ引きにしよう」

男の子「くじ引きは、ヤダー」

と又々ここでも両者ともゆずらず。決め方については、「お兄さん、お姉さんに任せて」と言って時間をもらい、まずじゃんけんにするか、くじ引きにするかのくじを作り、男の子代表、女の子代表に引いてもらいました。その結果、じゃんけん決めてことになり、男の子と女の子の間で「さんまのじゃんけん」。男の子が勝ち、プレゼント交換のプレゼントは、「手作りの物」と決定しました。

話し合いの後は誰かが、「ポコペンしようよ」と言うと、男の子も女の子も、「しよう、しよう」と言って、青年指導員のお兄さん、お姉さんと

一緒に、サーと外へ飛び出して行ってしまいました。

⑧ クリスマス会に向けてのリーダー会

この日のリーダー会では、買い物係、当日のゲームやプレゼント交換について等、短時間のうちにどんどん決まった一方、子供達は、去年もやっているのだから細かい事は決めなくても平気という気持ちが強く、ゲームに使うものを用意したり、何を買うに行くのか等、細かいことは話し合われませんでした。お母さん達や青

図-3 すくすくクラブのクリスマス会のチラシ



年指導員は、あえて口出しせず、成り行きを見守っていくことにしました。

それでも、「今年のプレゼントは手作りだけど、低学年は出来るかな？ 女の子と男の子では好みも違うし、大丈夫かな？」とさすがはリーダーらしいものの見方をしています。

「クリスマス会のチラシは誰がかく？」

「由佳ちゃんは、クリスマス会に出られないけど書いてみる？」

「うんいいよ」

それも翌日には届けられ、とてもかわいいサンタクロースを書いてくれました(図13)。

⑦クリスマス会に向けての子供の定例会(第二回)

この日は最初に青年指導員のお兄さんから入会希望者(小学校三年生、男の子)の紹介があり、本人の自己紹介、子供達からの質問等の後、すすくバッチの贈呈式を行い、会員として認められました。

次にクリスマス会の打ち合わせを簡単に行いました。その後、今日行うことが決まっていたマカロニ細工によるクリスマス飾りをみんなで作りました。

最初に青年指導員から以前にマカロニ細工を作った経験のある子(中学校一年生、女の子)が紹介され、簡単に作り方の説明がされました。

説明が終わるか終わらないうちに、それぞれに配られた厚紙に、クリスマス的な絵を描く子、好き勝手な絵を描く子があらわれ始めました。

それにつられて、周りの子供達も次々に絵を描き始め、中には自宅から持って来たクリスマスの手芸関係の本を見せてまわる子もいて、いろいろなデザインが出来ました。それを鋏で切り取り、ボンドをつける。「おばさん、そんなにうすくつけるんじゃないよ。もつとたつぷり、べとべとつけるの！ そうしないと、くっつかないよ」と五年生の女の子からコツを教えるもらう。なるほど、ふつうにつけるとうまくつきません。

松ぼっくりを使った子、クリスマスツリーの飾りにした子、リースや長靴も数多く出来ました。出来た順に神社の庭に新聞紙を広げ、その上に作品を並べて青年指導員のお兄さんにラッカー(金色)を吹きつけてもらう。本当は子供達それぞれに任せたかったが、会場が神社で、そこを汚すとまずいのでお兄さん達にお願いしました。

ほとんど失敗もなく、マカロニ細工は手軽に出来ました。一人何点も作品を作り満足そうな印象が良かったです。

⑧クリスマス会

十一月よりリーダーの子供達を中心にクリスマス会に向けての準備に取り組んできました

が、いよいよ当日を迎えました。リーダー達は三十分早く集まり、会場の準備を始めました。

始めのことは、中学校一年生の男の子の「これからすすくクラブのクリスマス会を始めます」に始まり、ゲーム、手ざぐりゲーム、ジェスチャー、ハンカチ落とし等々。よく出来た子にはリーダーから賞品が出ます。

クリスマスケーキは、今年は五千円の予算で、リーダー達が買い出しをし、ロールケーキ、おかし、飲み物等を用意し、テーブルの配膳も子供達だけで行いました。

子供達の楽しみに行っているプレゼント交換では、順番に「ひもくじ」を引き、手作りのプレゼントを受け取ります。全員の手に渡った時、一人ひとり、どんなものを受け取ったか、みんなの前でおひろめをしました。

「ワーこのカレンダーお兄さん作ったの」

「きれいなハンカチ、〇〇ちゃん自分で縫ってきたの」

「ちがうよお母さんが縫ったの」

「ワーきれいなツリー飾り。やっぱりお姉さんが作ったんだ。ほしいな」

「手作りクッキーだ。いいな」等々。

青年指導員のお兄さんの紹介で、その都度みんなの歓声があがりました。最初は心配した手作

りですが、どの子も手作りのプレゼントには満足そうでした。

クリスマス会終了後、その日にリーダー会を開き、今日の反省をしました。リーダー達は、「少し疲れた。準備が大変だったけど、だけど良かった!」と、どの子供も、晴れ晴れした顔をしていました。

クリスマス会は三回目なのですが、一年の締めくくりの行事として、子供達が楽しみにしているものです。その楽しみにしているクリスマス会を、大人に与えられるのを待つのではなく、今までのいろいろな活動の積み重ねによって子供達が自分達で、見通しをもって計画して、やりとげることが出来ました。それを見届けた時の感動を、みんなに伝えたいと思っています。

次に、こうしたすくすくクラブのさまざまな活動に、青年指導員としてかかわってくれてくれる大学生の感想をご紹介します。

「すくすくクラブとの二年間のおつきあい」

定方一悦（大学生）

すくすくクラブという団体にかかわり始めてもう二年半になりました。長いようで短い時間だったな、と今思っています。僕はもともと大学のボランティアサークルで活動をし

ていて、そのサークルを通してすくすくとお付き合いが始まったのです。

子供と触れ合う機会を増やしたい、それがすくすくに参加した動機です。それまでいろいろなボランティアをやりましたが、その中で特に楽しかったのは子供達と接触のあるもの、養護施設での勉強会や、ガンセンターでの勉強会でした。子供達と一緒にいると彼らが発散するイキイキとしたエネルギーをこちらがもらえる、僕がもう忘れてしまった喜びをつかのま思い出すことができる、そんな気がしたので。

しかし、そういう甘っちょろい期待はみごとに裏切られたような気がします。すくすくの子供達は、何と言いますか、世慣れているのです。自分の好きなことには熱中しますが、嫌いなことはすぐそっぽをむく。「○○しようか?」と誘えば、「かっけてにやれば」みたいな答も返ってきます。もちろん、子供は子供であるし、その無邪気さやエネルギーはあるのですが。人なつっこいところがない、そう言ってもいいかも知れません。それは、彼らが、普通の家庭の普通の子供達だからかも知れません。施設の子供達の中には僕と会うことを確実に喜んでくれる子供がいました。それは彼らが親と一緒に暮らしていない

寂しさのせいなのでしょう。それは僕にとっても喜びでした。そういった意味では、すくすくの子供は僕を必要としていません。

このような違いは、接する立場の違いにもあるかもしれません。施設では、特定の子供と一対一での付き合いでしたが、すくすくでは子供の集団と付き合っていたかなければならないからです。一対一で子供に接するのと、子供の集団と接するのでは根本的な差があります。一対一で接する時、その時間の中では子供の目はすべて僕にそがれているし、僕の目も同じです。集団の中では、まず子供同士のやりとりがあり、それに僕が加わっていきます。そこでの子供達との触れあいは、やはりあっさりとしてきます。

今までの二年半は興味と勢いで続いてきました。しかし今、僕はすくすくで何ができるのか、そして僕自身がすくすくでどんなおもしろさを見つけられるのかを考える時期が来たような気がしています。

僕はとにかく子供が好きです。これが出発点であり答えでもあります。塾へかよい習い事をする子供達は、マスコミで言われるように病んでいるわけでもなければ悲鳴をあげているわけでもありません。そのまま十分に輝いています。そんな彼らと気張らず対等に、

そして年をとっている分だけは少し離れて見る視点をもって、付き合っていきたいと思っています。

お母さん達の中には、すすすくは子供達が自分達でやりたいことを自発的にやる異年齢集団でありたい、と言う人がいますが、僕は、こうありたいという枠はいっさい考えないでいきたいと思っています。なるべく自然になるようになつていけばよいと思います。

とにかくこれからどうなりますか。力を抜いてやっていこう。

六——おわりに

以上が、この三年間のすすすくクラブの活動の一部です。これ以外にもすすすくクラブの活動は多岐にわたり、活動を通じて子供と共に学び、共に喜び、共に悲しみ、共に創造し合い、共に苦しみ、そして共に成長して、今日までに至りました。これらを通じて、少しずつですが、子供の本来の子供らしさを見ることが出来るようになりました。

これもひとえに、区役所の方々、学校、地域の人々、その他たくさんの方々のお力添えがあったからこそです。

そして、子供達、高校生、大学生、社会人のお兄さん、お姉さん、お母さん達が惜しみなく

知恵を出し合ったからこそだと思っています。でも、まだまだすすすくクラブは発展途上です。この「調査季報」をお読みになって、すすすくクラブについてお気づきの点がございましたら、いつでもご連絡頂ければ幸いです。よろしくお願い致します。

すすすくクラブ運営委員一同

竹生範子、平野恵子、村田三枝子

若林広枝、坂本美津子、諏訪恵子

柏原都、鈴木由美子（主婦）